

# 第1回 大きな数

## 答え

- (1) 二十四億六千三百九十九万五千七百一十一  
(2) 五千八百七十三億六千万
- (1) 65000083010000  
(2) 3807010000
- ㊦ 6000 億 (6000000000000)  
㊧ 1 兆 4000 億 (14000000000000)
- (1) 7 兆 6000 億 (76000000000000)  
(2) 541 兆 8000 億 (5418000000000000)
- (1) 298 (2) 9, 1020  
(3) 3276 億 (3276000000000)  
(4) 3276 兆 (32760000000000000)
- (1) 9853200000000  
(2) 2000000003589  
(3) 5983200000000

## 考え方

- 右から4けたごとに区切って考えます。  
(1)  $\begin{array}{r} \text{億} \quad \text{万} \\ 2406390571 \end{array}$   
(2)  $\begin{array}{r} \text{兆} \quad \text{億} \quad \text{万} \\ 5108730006000000 \end{array}$
- 読まない位には0を書きます。  
(1)  $\begin{array}{r} \text{兆} \quad \text{億} \quad \text{万} \\ 650000 \quad 83010000 \\ \text{兆} \quad \text{億} \quad \text{万} \end{array}$   
(2) 一億が38こで38億、一万が701こで701万。数字で書くと、  
 $\begin{array}{r} 3807010000 \\ \text{億} \quad \text{万} \end{array}$
- まず、数直線の1目もりの数を考えます。10目もりで1兆なので、1目もりは1000億を表すことがわかります。

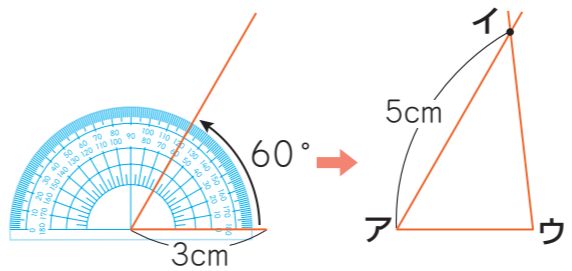
- 10倍すると位は1けたずつ上がり、 $\frac{1}{10}$ にすると位は1けたずつ下がります。  
(1)  $\begin{array}{r} 7600000000000 \\ 7600000000000 \\ \text{兆} \quad \text{億} \quad \text{万} \end{array}$   $\xrightarrow{10 \text{ 倍}}$   
(2)  $\begin{array}{r} 5418000000000000 \\ 5418000000000000 \\ \text{兆} \quad \text{億} \quad \text{万} \end{array}$   $\xrightarrow{\frac{1}{10}}$
- 大きな数をかたまりとみて計算します。  
(1)  $216 + 82 = 298$  だから、一億のかたまりは298こあります。  
(2)  $5 + 4 = 9$  だから、一兆のかたまりは9こあります。また、 $349 + 671 = 1020$  だから、一億のかたまりは1020こあります。  
(3)  $91 \times 36 = 3276$ 、1万  $\times$  1万 = 1億だから、  
 $91 \text{ 万} \times 36 \text{ 万} = 3276 \text{ 億}$   
(4)  $91 \times 36 = 3276$ 、1億  $\times$  1万 = 1兆だから、  
 $91 \text{ 億} \times 36 \text{ 万} = 3276 \text{ 兆}$
- 数の大きさは、いちばん上の位できまります。  
(1) 数字を大きい順に書いていきます。  
(2) 0ではじまる整数はないので、0以外でいちばん小さな数の2を、いちばん上の位に使用します。あとは、残りの数字を小さい順に書いていきます。  
(3) 6兆にいちばん近い数を書くので、いちばん上の位は6に近い数になります。6はないので、いちばん上の位には5を使用します。あとは、残りの数字を大きい順に書いていきます。

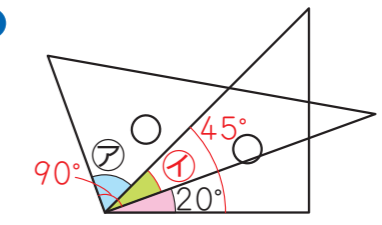
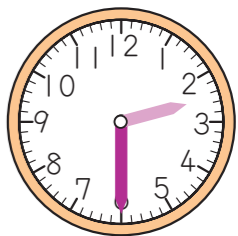
# 第2回 角

## 答え

- (1)  $48^\circ$  (2)  $300^\circ$
- (1) (2)
- ※「考え方」を見てください。
- $65^\circ$
- ㊦  $60^\circ$  ㊧  $100^\circ$  ㊨  $80^\circ$
- $105^\circ$

## 考え方

- 角の大きさのはかり方を教科書でかくにんしておきましょう。  
(2)  $180^\circ$  よりどれだけ大きいかをはかると  $120^\circ$  なので、 $180^\circ + 120^\circ = 300^\circ$   
**【別のとき方】**  
 $360^\circ$  よりどれだけ小さいかをはかると  $60^\circ$  なので、 $360^\circ - 60^\circ = 300^\circ$
- 角のかき方を教科書でかくにんしておきましょう。  
(2)  $320^\circ - 180^\circ = 140^\circ$  なので、 $180^\circ$  の角に  $140^\circ$  の角を合わせてかきます。  
**【別のとき方】**  
 $360^\circ - 320^\circ = 40^\circ$  なので、 $360^\circ$  の角から  $40^\circ$  の角をひくと考えてかきます。
- まず、長さがわかっている辺を1つかきます。  
  
3cmの辺をかき、 $60^\circ$ の角をかく。  
点Aから5cmのところへ点Iをかき、IとUを結ぶ。

-   
上の図の㊦の角の大きさは、  
 $45^\circ - 20^\circ = 25^\circ$   
だから、㊧の角の大きさは、  
 $90^\circ - 25^\circ = 65^\circ$
- ㊦の角… $180^\circ$  から  $50^\circ$  と  $70^\circ$  をひいて、  
 $180^\circ - 50^\circ - 70^\circ = 60^\circ$   
㊧の角… $180^\circ$  から  $80^\circ$  をひいて、  
 $180^\circ - 80^\circ = 100^\circ$   
㊨の角…2本の直線が交わるとき、向かい合った角は大きさが等しいので、 $80^\circ$
- 長いはりは、12のところからみて、1周のちょうど半分まわったところにあるので、 $180^\circ$  まわったことがわかります。  
  
長いはり1周のちょうど半分まわったところなので、短いはりは2と3のちょうどまんなかにあることがわかります。図の㊦の角度は  
 $90^\circ \div 3 = 30^\circ$   
なので、短いはり、㊦の角度の2こと半分だけ、12のところからまわったことになり、  
したがって、長いはりまわった  $180^\circ$  から、短いはりまわった  
 $30^\circ \times 2 + 30^\circ \div 2 = 75^\circ$   
をひいて、 $180^\circ - 75^\circ = 105^\circ$